

補助事業成果書

1 補助事業の実施方法

1 事業概要

大学生・高校生などの若者を参加対象に、地域やNPO・市民活動へインターン生として23人を派遣する地域インターンシップ事業を実施しました。

今年度は、これまでの成果と課題を踏まえ、インターン開始前に受入れ団体を見学できるオープンデイを実施しました。オープンデイを実施することにより、インターン応募検討者が受入れ団体の情報を具体的に得られるだけでなく、プログラム応募にハードルを感じている人々にも受入れ団体の活動を広く知ってもらう機会にもなりました。

そして、従来の市民活動団体だけでなく、町内会・商店街などの民間が組織する地縁組織や団体とも連携を広げ、インターン生の受入れ団体として参加していただきました。

また、インターン生同士の交流の「情報交換・交流会」を設け、インターン先以外の団体とも情報交換をし、横のつながりを広げるきっかけづくりを行いました。

更に、「活動報告会」では受入れ団体ごとにプレゼンを作成し、発表を行いました。発表後には質問タイムを設けて活動について深掘りし、充実した発表になりました。

2 2024年度の事業スケジュール

月	活動内容	日程	学生	団体
4月～	学生募集	4月12日～6月7日	—	—
	受入れ団体オープンデイ	4月27日～5月20日	○	○
5月～	学生説明会	5月31日20:00-@オンライン	○	—
	希望団体の提出	5月31日～6月7日	○	—
6月～	学生・受入れ団体調整	6月7日～6月13日	○	○
	学生と団体との顔合わせ会	6月23日14:00-18:00@砧総合支所 趣旨・事業説明 目標設定 受入団体との相談タイム 懇親会	○	○
7月～	活動期間	7月～9月@各活動団体	○	○
8月	情報交換・交流会	○8月4日 13:00～@烏山区民会館集会室 ○8月31日13:00～@オンライン(台風のため、三茶しゃれなあどホールより変更)	○	—
10月	活動報告会・終了証授与	10月20日@三茶しゃれなあどホール シリウス	○	○
11月～ 12月	学生実行委員 振り返り・インターン 生事後交流会	○11月8日19:00～@COS下北沢ホール ○11月19日19:00～@COS下北沢ホール ○12月18日19:00～@COS下北沢ホール	—	—
1月～ 2月	報告作成作業会 (学生実行委員)	○1月10日15:00～@COS下北沢ホール ○1月29日15:00～@COS下北沢ホール ○2月26日15:00～@COS下北沢ホール	—	—

3 運営体制

多様な人や団体がそれぞれの専門性や当事者を活かして参画する、実行委員会形式で行いました。また、協働事業として、世田谷区 子ども・若者部 子ども若者支援課ともより密に連携を取り、役割分担しながら事業を進めました。

- 実行委員会内での役割分担
 - ＜派遣コーディネート＞
 - ・認定NPO法人CFFジャパン(青年リーダー育成)
 - ・NPOインターンシップラボ(全国各地のNPOインターンシップネットワーク)
 - ＜運営・インターン生のサポート＞
 - ・昨年度のインターンシップ卒業生
 - ・区内の学生有志
 - ・区内の大学教員有志
 - ＜受入れプログラム作成・学生受入れ＞
 - ・地域活動団体
 - ・地域活動実践者
- 協働事業としての世田谷区との役割分担
 - ＜地域インターンシップ世田谷実行委員会の役割＞
 - ・事業の企画・運営全般
 - ・インターン生のコーディネート・サポート
 - ・受け入れ団体のコーディネート・サポート
 - ＜世田谷区子ども・若者部子ども・若者支援課の役割＞
 - ・事業の企画・運営の補助・事業の周知・広報
 - ・研修会等での講師・報告会でのトークセッション登壇
 - ・会議の会場提供等

4 周知方法

1 受入れ団体、インターン生の募集方法

■インターン生(学生)

- ①チラシ配架
 - ・世田谷区内の児童館・青少年センター等の公共施設
 - ・社会福祉協議会・ボランティア協会・サービス公社
- ②昨年度の受入れ団体によるチラシの手渡し
- ③大学経由のチラシ配布(駒沢大学、産業能率大学、国士舘大学、國學院大学、日本女子大学))、
- ④大学の授業での告知(駒沢大学、産業能率大学、国士舘大学)
- ⑤ウェブ
 - ・団体ウェブサイト
 - ・団体SNS(フェイスブック・Instagram)
 - ・有料ボランティアサイト(アクティボ <https://activo.jp/>)
 - ・東京ボランティアセンターのウェブサイト(<https://www.tvac.or.jp/>)
 - ・掲示板サイト(ジモティ<https://jmtty.jp/>)

■受け入れ団体

- ①ウェブ
 - ・団体ウェブサイト
- ②昨年度までの受入れ団体への打診
 - ・個別に事前説明
 - ・参加意思のある団体が受け入れ団体応募サイトへ申し込み
- ③実行委員の声かけ



2 補助事業の成果の具体的内容

1 インターンシップ受入れ団体の受入れ人数

団体名	活動分野	人数
一般社団法人おやまちプロジェクト	まちづくり(尾山台の商店街)	4

放課後等デイサービス 凸凹Kidsすぺいす	障害児支援	1
羽根木プレーパーク	子ども・外遊び	1
100人の本屋さん/コワーキングスペース 100work	まちづくり(松陰神社前のコミュニティスペース)	4
福田コミュニティ農園	農業	3
NPO法人子育て支援グループamigo	子育て支援	3
三軒茶屋町会(チームロコハブ三茶)	まちづくり(三軒茶屋)	2
下北沢盆踊り実行委員会	まちづくり(下北沢)	5

2 顔合わせ会

6月23日、成城学園前駅の近くにある砧総合支所4Fにて、地域インターンシップ2024のスタートイベントである「顔合わせ会」を行いました。インターン生と受け入れ先の方々、実行委員なども合わせて会場には40人以上が集まりました。

最初の趣旨説明や事業説明は、学生スタッフと社会人スタッフで行いました。

インターンへの参加を確認した後、ミニゲーム形式のアイスブレイクを行いました。実は〇〇ゲームでは、意外な特技を持っている人を発見できたりと、インターン生同士お互い知るきっかけになりました。

世田谷区の若者支援担当課の方から、世田谷区による若者世代の取り組みや居場所について話していただきました。

お話し後は、交流タイムです。受け入れ先の方々も参加し、ITOとマシュマロタワーチャレンジの交流ゲームを行いました。チーム同士でいかに高いタワーを作れるか競い合い、エキサイトした交流タイムでした。

後半は目標設定です。インターン生、受け入れ先の団体双方に、実習の終了後イメージしてもらい、目標を考えてもらいました。「インターン終了後にどんな自分になりたいのか」「活動を通じて何を徳たいか」を考え、その上で、各自の「インターンシップの具体的な目標」を立てました。

その後、受け入れ先への訪問日や内容相談などを話し合い、活動計画を作りました。

最後に、インターン生にはそれぞれ意気込みを書いてもらい、写真を撮影しました。



3 情報交換・交流会

●情報交換・交流会①

8月4日、烏山区民会館集会室にて、第一回の「情報交換・交流会」を行いました。今回は実行委員の企画した交流ゲームを中心とし、団体を越えてインターン生同士の交流を深め、横のつながりが広がるようなものとなりました。



●情報交換・交流会②

8月31日、第二回情報交換・交流会は、台風の影響により急遽オンライン開催になりました。前日に変更したことや、オンラインになったことで参加環境が整わない方がいたため、参加者が予定より少なくなっていました。

そこで、今回は、ZOOMのホワイトボード機能を利用してアイスブレイクや、活動の様子や課題を共有し合うワークショップを行いました。学んだことや課題点の違いが、各団体の特色が出ていましたが、インターン生はコミュニティや地域の方との連携があってこそその活動団体であると感じていました。



印象に残ったこと/新たに学んだこと/頑張ったこと
(黄色)

イベントが地域住民に与える影響の大きさが印象に残った

前日当日後日の計画4日間のボランティアを頑張った

沢山の友達に会えたことが嬉しかった

みんなが楽しく踊っていた

子どもたちの笑顔／宣伝について／企画運営

事業の継続や普及を図るなど、地域に根ざす活動について学んだことが多かった

課題点/課題を解決するための行動

・実行委員会主催への提出書への掲載性がなかった
・イベント自体の活動は終わるが継続的に継続

実行委員会や協賛日当日に自分から行動することができなかった/実行委員会の方と継続的に話す

企画を行った際に、子どもたちが他の遊びを始めてしまった/声をかける

利用者さんの利用目的から本意さんの在り方を考える

4 取材

今年度からの取り組みとして、インターン期間中に学生実行委員が各インターン先に赴き取材を行いました。

(記事はウェブサイト参照)

・NPO法人子育てネットワーク

<https://internship-setagaya.net/archives/1368>

・凸凹Kidsすぺいす

<https://internship-setagaya.net/archives/1378>

・羽根木プレーパーク

<https://internship-setagaya.net/archives/1386>

活動の様子を見学、時にはお手伝いさせていただくなど、インターン生や団体の方にお話を聞くことで各々の活動への思いをより深く知ることができ、実行委員とインターン生との距離も縮めることができたように思います。

5 活動報告会

インターン期間終了後、10月20日に活動の集大成である活動報告会を開催しました。団体ごとに資料を作成し発表を行い、発表後には質問タイムを設けて活動について深掘り、充実した発表になりました。



6 インターン期間終了後の活動

11月8日、19日、12月18日にインターン生と学生実行委員（昨年度のインターン生）との交流会を行いました。11月は交流会・報告会の振り返りを行いました。12月は、報告書作成のためのスケジュールを決めたのち、ゲーム大会を行い、交流を深めました。

1月、2月は、学生実行委員による報告書の作成作業会を実施しました。



3 成果の自己評価

1 協働することで得られた「成果」や「効果」、「区民・地域への波及効果」について

担当課からのアドバイスにより、より学生の現状に近いプログラムを計画することができて、参加学生にはスムーズにプログラムに参加してもらうことができました。また、担当課から世田谷区の事業のレクチャーをいただくことにより、世田谷区が学生にとってより身近になり愛着が生まれるきっかけとなりました。

2 改善が必要と思われた点について

担当課から実行委員会のプログラムへの連携・参画はしていただけたのですが、担当課の事業への実行委員会からの連携は、あまりできませんでした。イベント時や参加者が実施しているSNSなどでの担当課の事業の紹介など簡単なことでも良いのでもう少し丁寧にできると、事業の理解が進み協働がより深まったと思います。

3 事業に関する評価

1 計画どおりに進められたか

スケジュール等をブラッシュアップしたことにより、事業は計画通りに進められました。

2 事業の具体的効果（区民サービスや施策としての効果など）

プログラムに参加した学生を中心に世田谷区のまちへの理解や愛着をもつ若年層へのSNS等での情報発信を行うことができました。

3 改善が必要と思われた点について

受入れ団体へのサポートのプログラムが十分に機能していたか、検証が必要な状況です。現在は、実行委員会がサポートする体制ですが、受け入れ団体同士がサポートし合う体制など、持続可能性が高い運営方法等についても今後検討が必要であると考えます。

4 事業の成果の活用方法や将来の展開について

地域インターンシップのような事業を体験した若年層の受け皿となる場があると良いと考えます。区内には既に児童館や社会福祉協議会やボランティア協会などを通じた団体へのインターンシップなどにて、地域の活動に触れた若年層が交流し合うことにより、まちの生態系を育む取り組みに広げていければと思っています。